



5619053

01. 建築の輪

ー福山本通商店街における再編計画ー

MOE NAKANO

背景・目的

1.商店街の現状

今日、地方都市における駅前商店街の衰退は地域が抱える大きな課題である。本来、商店街とは、その地域の文化や地域の特色を発信する存在であり、地域のコミュニティの場として地域を盛り上げている存在である。しかし、現在、多くの地方都市の駅前商店街は衰退が進み、シャッター街と化しているのが現状である。地方都市の駅前商店街が衰退していく要因には、郊外の大規模ショッピングモールの進出、医療施設や行政サービス、学校や住宅などの都市機能の郊外移転による中心市街地の空洞化、経営者の高齢化による後継不足などが挙げられる。

2.空き店舗の現状

商店街の空き店舗率も年々増加傾向にあり、シャッターが閉まった空き店舗やシャッターは閉まっているが長期間営業されていない店舗が多く見られる。心理学的に「廃れている」と感じる境目と言われている「空き店舗率10%」を超える商店街は、全国の商店街の40%にも達している。

3.目的

これらの背景より、今までと同じようにただ商品を提供するだけの商店街では時代の流れと共に形骸化していくことがわかる。本計画では、地域のコミュニティの拠点機能となるような観光客など地域外の人も呼び込むことのできる新しい商店街の在り方を目的とする。

計画敷地

計画敷地は広島県福山市笠岡町にある福山本通商店街である。

福山本通商店街は江戸時代から「とおり町（とおりちょう）」という名で親しまれているショッピングストリートである。JR福山駅から徒歩7分の場所に位置する利便性のいい土地であることより幅広い世代の人が利用しやすい敷地である。



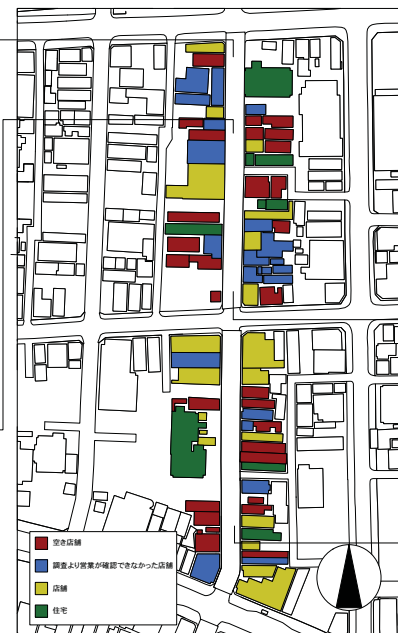
計画地(福山本通商店街)

敷地調査

今回、2022年8月2日(火)、8月10日(水)、8月18日(木)の計3日間に現地の敷地調査を行った。

この地は2016年にアーケード改修事業が行われ、開放的な公園のようなストリートスケープへ生まれ変わっているが、今回行った3日間による敷地調査より現状が確認できた。

敷地調査から、シャッターが完全に閉まっている空き店舗、または、シャッターは閉まっているが計3日間の調査より営業が確認できなかった店舗が図3の用途別分布図より確認できる。そして、それらの店舗は全体の約60%にも達している。こうした結果より、空き店舗、営業されていない店舗が多く見られ閑散としている現状がわかった。



用途別分布図(福山本通商店街)



計画方針

1. ストリートデザインガイドライン

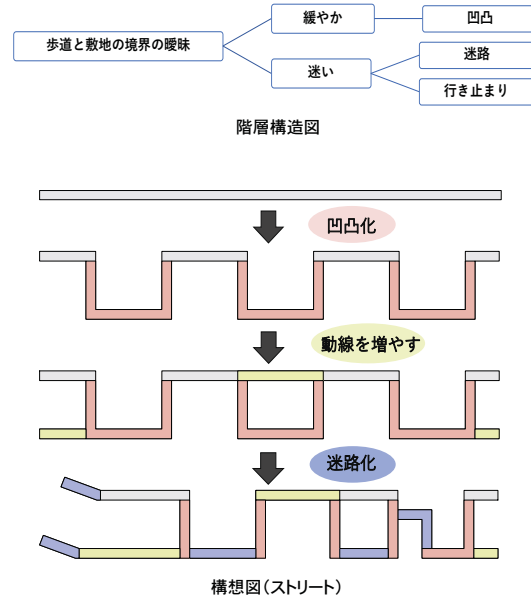
商店街は当たり前だが人が利用する場である。人が居心地良く歩きたくなるようなデザインにするため、国土交通省が規定する「ストリートデザインガイドライン」に即して計画を進めた。

ストリートには通行（リンク）と滞在（プレイス）の2つの機能があり、その配分は道路の幅員や立地により検討し計画する必要がある。

そして、人の通行の中にも、さまざまな行動形態があり、それらに合わせて緩やかに分かれた、歩道と敷地の境界が曖昧な街路空間が求められる。

2. ストリートデザイン

歩行部分のストリートを計画する。ストリートデザインガイドラインから今求められる歩道と敷地の境界の曖昧さを具現化したのが階層構造図である。階層構造図より出てきた緩やか、迷い、凹凸、迷路、行き止まりの操作を基礎のストリートに加えることで新しいストリートを構成する。（構想図）



配置構成

1) コミュニティセンター

地域の人と観光客が交流を図れる施設。小ホールもありイベントの開催も行われる。

2) 店舗

②は主に地域の売れ残った食材の販売店舗。レストラン、カフェ、その他さまざまな店舗を設ける。

3) ゲストハウス

観光客の人が宿泊する施設。1.2階は宿泊客でない人も利用できる。

4) ワークショップ

地域の人と観光客が利用できる体験型ワークショップを設ける。

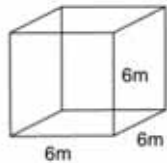
完成したストリートの空白部分に隣接するように①～④にエリア分けする。出来上がった4つのエリアをプログラムで計画した施設に割り振ったのが計画施設構成図である。程よい密接さと外部の空間ができることでエリア全体に心地よい印象を与える。



計画施設構成図

空間構成

1. 基本システム

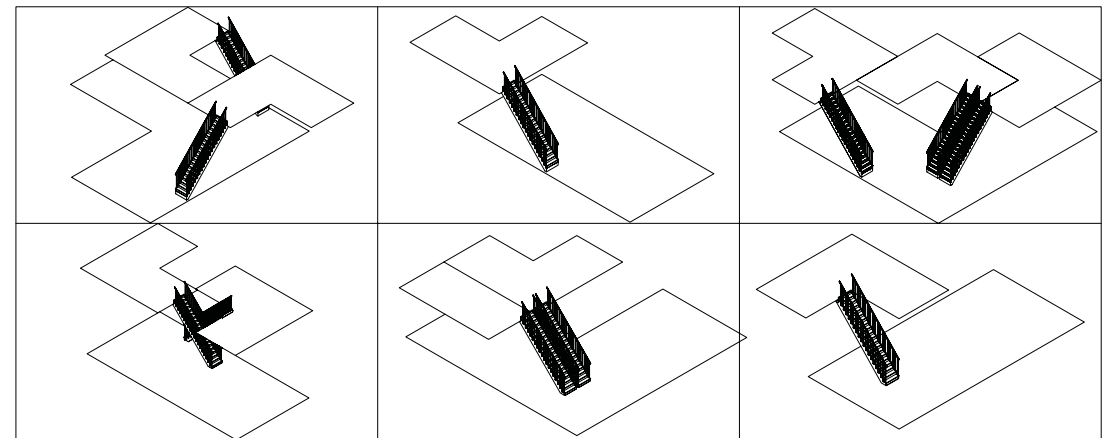


1グリッド 6m×6m×6mで構成する。

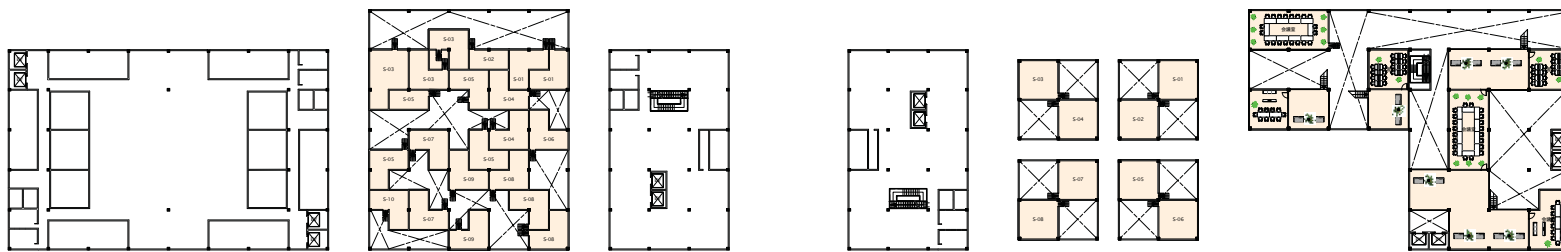
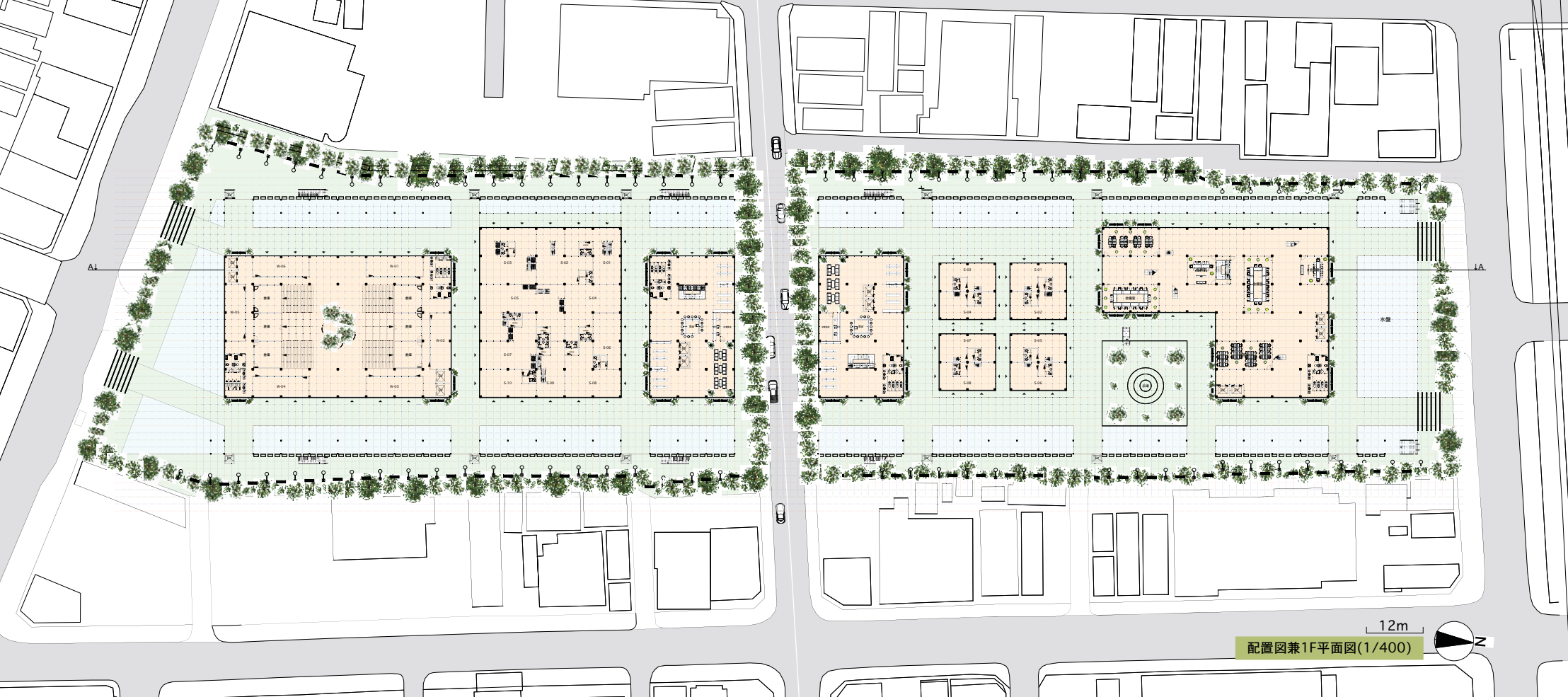
施設の用途に合わせてこれらを組み合わせて建物を計画する。基本的にはこのグリッドで構成されるが、施設の構造によってさらに細分化されることもある。この場合1グリッドを8分割させた1/8グリッド＝3m×3m×3mで構成される。

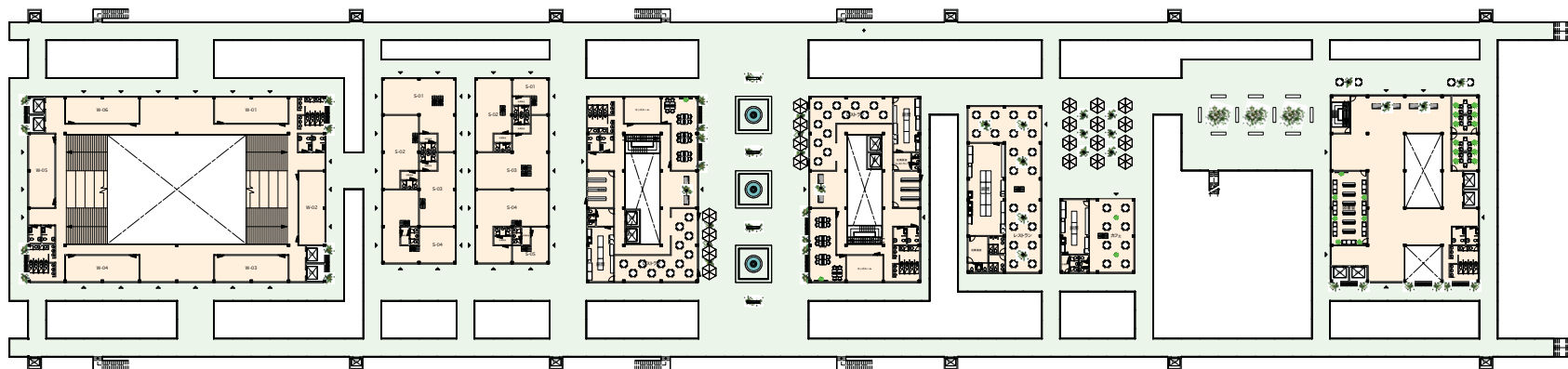
2. 空間計画

本計画目的である「地域のコミュニティの拠点機能となる観光客も呼び込む商店街」より、交流を促す空間を計画する。交流が生まれる空間にするために空間の連続性を高める必要がある。そのため、施設の壁は可能な限り透明な壁、間仕切りを用いて空間同士を遮るものをなくす。1グリッド上に店舗を不規則に組み合わせることで構成し、空間をパズルのように組み合わせている。いくつかの中から6つの組み合わせをピックアップしたのが右のアイソメ図である。

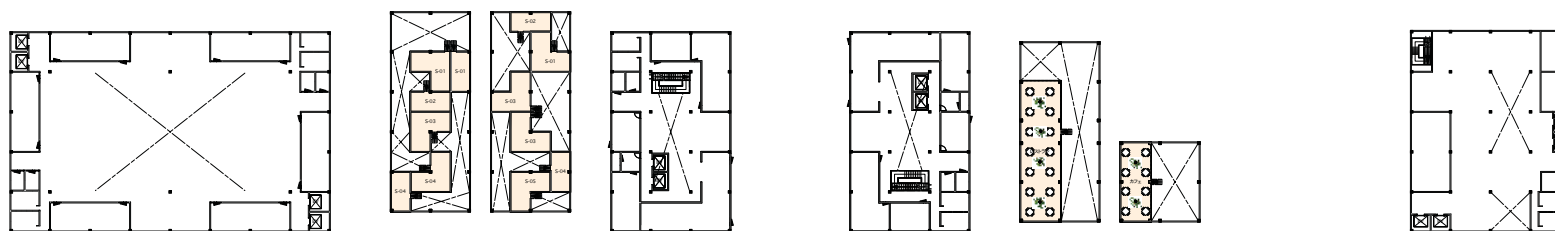


アイソメ図(グリッド構成)

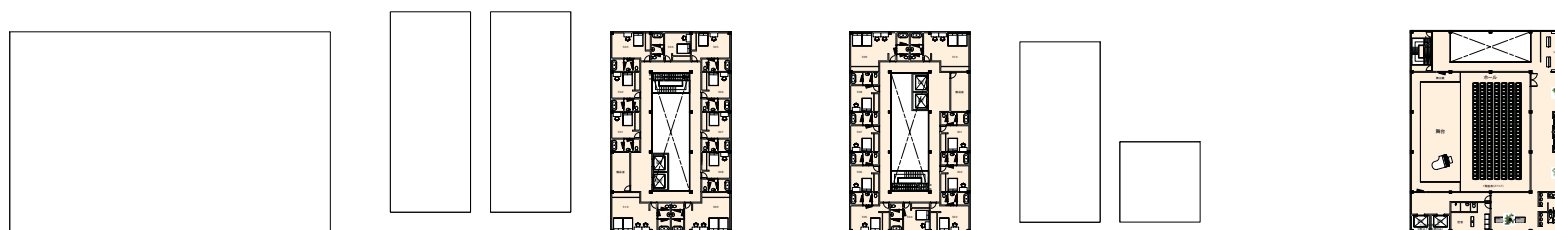




2F平面図(1/400)



2.5F平面図(1/400)



3F平面図(1/400)



4F平面図(1/400)



西立面図(S=1/350)



A-A断面図(S=1/350)



1階フロア



1Fゲストハウス



1Fコミュニティセンター



2階フロア



2Fワークショップ



2Fレストランカフェテラス